

ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿 (HRS鈴鹿) 2024年度 Moto Class・Kart Class修了記念走行および 合同修了式のご報告

拝啓 寒冷の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、「ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿 (HRS鈴鹿)」ではHRS鈴鹿Moto Class・Kart Classの2024年度修了記念走行および合同修了式を12月22日(日)に行いました。この修了記念走行と合同修了式をもって2024年度の全カリキュラムが無事終了いたしました。これもひとえにご協賛・ご協力いただきました各社の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、ここに開催のご報告をさせていただきます。

HRS鈴鹿は2025年度も世界に通用するライダー・ドライバーの育成を目標に活動を続けてまいります。引き続きご理解・ご協力賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

敬具

2024年12月

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿事務局

●2024年度 HRS鈴鹿Moto Class・Kart Class修了記念走行／合同修了式 開催概要

■日時： 2024年12月22日(日)

■概要： 修了記念走行 … 南コース(1.264km)

合同修了式 …… 鈴鹿サーキットホテル2F ミーティングルーム

■参加：

<HRS鈴鹿Moto Class(ベーシックコース／アドバンスコース)>

Principal／岡田忠之

Director／田村圭二

Instructor／野田弘樹・宮崎祥司・高橋裕紀・山本剛大・出口修・榎戸育寛・太田雄

Physical Trainer／植田尚吾

<HRS鈴鹿Kart Class(ベーシックコース／アドバンスコース)>

Principal／佐藤琢磨

Executive Director／中野信治

Director／服部弘光

Chief Mechanic／長島哲也

Support Driver／野村勇斗

Physical Coach／鎌田貴

※以上敬称略

HRS鈴鹿Moto Classベーシック受講生：8名・アドバンス受講生：2名

HRS鈴鹿Kart Classベーシック受講生：6名・アドバンス受講生：3名

HRS鈴鹿Formula Classスカラシップ獲得者：2名



的確なマシンコントロール技術が身についたことを 難しいコンディションで証明した最終カリキュラム

3月23日(土)に行ったHRS鈴鹿Moto Class・Kart Class合同による入校式。その日から約9ヶ月を数え、12月21日(土)・22日(日)の2日間に渡る走行トレーニングが2024年度の最終カリキュラムとなりました。

初日となる12月21日(土)はKart Classの走行から開始。45分間のフリー走行の後、7ラップによるセット走行を3セッション、続いて10ラップによるセット走行を2セッションに渡って行いました。また、Moto Classでは午前中に45分間のフリー走行からスタート。午後は15分間のフリー走行を行った後、15分間の計時予選を実施し、そこでのベストタイム順にグリッドに並び、10ラップのレース②を行いました。

寒いこの時期は路面温度が低く、タイヤが温まりにくい
ため、両Classともに慎重に走行をスタート。路面コンディ
ションをしっかり確認することを徹底しました。また、Kart
Classではどのようなレース距離でも最初から最後まで集
中力を保つことを目的に7ラップと10ラップによるセット
走行を行いました。

Moto Classでは山本剛大InstructorとMoto Classスカ
ラシップ生の竹本倫太郎、そしてKart Classでは、HRS鈴鹿
Kart Class・Formula Classアドバンスの修了生で、「Honda
フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト育成ドライバー」とし
て2024年FIA-F4選手権に参戦、チャンピオンを獲得した
野村勇斗選手と、2024年度HRS鈴鹿Formula Classスカ
ラシップ獲得者に選ばれた佐藤凛太郎が同時走行。

また、Moto Class岡田忠之Principal、Kart Class佐藤琢
磨Principalはじめ、各Instructorにはコースサイドで受講
生のライディングやドライビングをチェックしていただき、
走行後に受講生に対してアドバイスを行っていただきました。



人間もマシンも始動前のウォームアップが極めて重要 (HRS鈴鹿Moto Class)















































[50音順]

修了記念走行、Moto Classの受講生が激しいバトルを展開 Kart Classの受講生も現役F4選手に匹敵する走りを披露

最終日の12月22日(日)もまずは全体ミーティングを実施。このミーティングの中では最後のカリキュラムに臨む受講生に向け、Moto Class岡田Principal、Kart Class佐藤Principalをはじめ、各Instructorから激励の言葉が掛けられました。時折小雨が降り、ウェットとなった路面のコンディション確認を兼ねてコースのランニングでウォームアップした後、いよいよ最後の走行トレーニングへ。この日もKart Classの走行から始まりました。

10分間のフリー走行の後、7分間のタイムトライアルを行い、そこでのベストタイム順にグリッドに並んで10ラップによる予選ヒートを行いました。この予選ヒートでは2番グリッドスタートの野村選手がホールショットを奪うと、そのままトップでオープニングラップを終了。後続を引き離し始めた野村選手の後方では塩田惣一郎、酒井涼、澤田龍征が2番手グループを形成。その3名は次第にそれぞれ単独走行となり、野村選手、塩田、酒井、澤田、徳岡大凱、小野原悠、Quintin Lu、獲得者の佐藤(凜)、横山輝翔、南崎高志、黄海仁のオーダーでチェッカーを受けました。

続いて予選ヒートのチェッカー順にグリッドに並び、修了記念走行です。鈴鹿選手権シリーズの決勝レース距離を想定した16ラップでの走行では、オープニングラップの1コーナー進入で熾烈なトップ争いが展開された結果、酒井、澤田、Luのオーダーに。大きく順位を落とした塩田がその後4番手まで浮上すると、徳岡とテールtoノーズのバトルを展開。さらに、酒井、澤田、Luがバックになり、トップ争いを繰り広げました。野村選手を交えた激しいバトルの末、酒井、Lu、野村選手、澤田、塩田、佐藤(凜)、徳岡、横山、小野原、南崎、黄のオーダーでチェッカーを受けました。

Moto Classの最後の走行トレーニングは30分間のフリー走行から始まりました。この走行で路面コンディションを確認した後、21日(土)に行ったレース①のチェッカー順にグリッドに並び、修了記念走行を行いました。

2輪レースの決勝レースを想定し、18ラップに設定したこの修了記念走行ではポールポジションからスタートしたAlfonsi Daquiganが良いクラッチミートを披露してホールショットを奪うと、Daquigan、長谷川蒼馬、中山結互、片口神月、榎戸育寛Instructorのオーダーでオープニングラップを終了。最後尾からスタートして周回ごとに順位を回復し、トップを走るDaquiganのテールをも捉えた榎戸Instructorが転倒したことにより、Daquiganが単独トップに。

安定したペースで走行するDaquiganの後ろでは長谷川と片口もそれぞれ単独2番手と3番手となります。中山や三崎尋也とテールtoノーズのバトルを展開した末、そこから抜け出すことに成功した久原昂士が終盤に片口に接近。しかし、パスするには至らず、Daquigan、長谷川、片口、久原、中山、濱地柁音、川口義人のオーダーでチェッカーを受けました。

白熱した修了記念走行後には本番さながらの表彰式も実施。各スクール上位3名の受講生に岡田・佐藤の両Principalから記念トロフィーが授与されました。



定例となっているカリキュラム前のミーティング。今回は最終でもあり、熱がこもっていた様子(HRS鈴鹿Kart Class)

 TAICHI

 Arai
HELMET

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXGEL
VictorSport

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 ODYSSEY
Ultimate Series

 PROBUDRACING
KAWASAKI

 Sabell

 CCI
CCI CORPORATION

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 IONY/KART
DI TAI TAI (C.C. C.C.)

 TORAY
Toray Carbon Magic

 YAMAHA

 BRIDGESTONE

 PETRONAS
Syntium

 hit-air
RACE DEVELOPMENT SYSTEMS

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS

[50音順]



HRS鈴鹿Kart Class修了記念走行シーン



HRS鈴鹿Moto Class修了記念走行シーン





修了記念走行後の表彰式
 HRS鈴鹿Kart Class: 上 / 優勝: 酒井涼、2位: Quintin Lu、3位: 澤田龍征
 HRS鈴鹿Moto Class: 下 / 優勝: Alfonsi Daquigan、2位: 長谷川蒼馬、3位: 片口神月





ともに学び、ともに成長したライバルたち、Principal、Instructorの皆さんとともに
 (HRS鈴鹿Kart Class:上/HRS鈴鹿Moto Class:下)





重要なルーティンワークとしての走行前後のメンテナンスと同時に、Instructorとのコミュニケーションも有意義 (HRS鈴鹿Moto Class)



世界のトップカテゴリーでの経験を伝えるPrincipal。極めて貴重な機会を見逃すことはできない (HRS鈴鹿Kart Class)



受講生19名が晴れやかな表情で成長した姿を披露した Moto Class・Kart Class合同によるHRS鈴鹿修了式

その後は鈴鹿サーキットホテル2階のミーティングルームへと会場を移し、HRS鈴鹿Moto Class・Kart Class合同修了式を行いました。この修了式には主役であるMoto Classベーシックコース(8名)・アドバンスコース(2名)、Kart Classベーシックコース(6名)・アドバンスコース(3名)の受講生たち合計19名が参加しました。

まず、ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキットモータースポーツ部レーシングスクールセンター所長の宮澤謙作より開会の挨拶。その後、株式会社ホンダ・レーシング(HRC)2輪レース部の山名壮一様、4輪レース部レース運営室 室長の栗田哲宏様よりご挨拶を、さらにMoto Class岡田Principal、Kart Class佐藤Principalより総括コメントをいただきました。そして、岡田・佐藤の両Principalからそれぞれのスクールの受講生たちに修了証が授与されました。

また、2024年度 HRS鈴鹿Formula Classスカラシップ獲得者の佐藤凜太郎と新原光太郎を紹介しました。Hondaのドライバー育成プロジェクト「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト(HFDP)」の選出ドライバーとして、首席の佐藤は2025年のフランスF4選手権、次席の新原はFIA-F4選手権に参戦。さらなるステップアップを目指すこととなります。

最後に、F1世界選手権に継続参戦している角田裕毅選手、Moto3クラスに継続参戦している古里太陽選手からMoto Class・Kart Class受講生に向けた激励の言葉がビデオメッセージによって届けられ、約9ヶ月間・延べ21日間におよんだHRS鈴鹿Moto Class・Kart Classの2024年度カリキュラムが無事終了いたしました。

長い歴史の中、HRS鈴鹿は角田裕毅選手(2016年度Formula Class修了)や古里太陽選手(2019年度Moto Class修了)をはじめ、国内外で活躍するトップライダー・トップドライバーを多く輩出してきました。彼らに続くライダー・ドライバーが現れることが期待されています。

なお、Kart Classアドバンスコースは2024年をもって閉校とし、2025年度から新たに「Formula Class選考コース」を開校します。こちらはレーシングカートとフォーミュラマシンの使用し、Formula Classアドバンスコース入校後に必要とされるスキルを学ぶコースで、3回開催(各2日間・計6日間)によりスキルアップを目指します。

このように「HRS鈴鹿」は今後も随時カリキュラムの充実を図っていきます。今後もHRS鈴鹿の活動、そしてHRS鈴鹿の卒業生たちの活躍にご注目願います。



Moto Class・Kart Classの受講生19名が晴れやかな表情で成長した姿を披露した















































●2024年度HRS鈴鹿Moto Class・Kart Class各Principalのコメント●

◇HRS鈴鹿Moto Class岡田忠之Principal◇



「最終日の今日は各コンディションがあまり良くありませんでしたが、それだけに良い練習になったと思います。皆さんの行動を1年間見ていて感じたのは、もっともっとInstructorの皆さんとコミュニケーションを取って欲しかったということです。さらに深く学び、そして自信をつけて欲しいと思います。自分ひとりで悩むのではなく、人にアドバイスを求めて欲しい。Instructorにしつこく付きまるとしてアドバイスを求めるぐらいレースが好きであって欲しい。自分から人にアプローチし、そこで得られたことを積み重ねることより、良い結果が生まれていきます。その良い結果をいくつも積み重ねることが、自信につながっていきます。その自信は、レース活動はもちろん、人生にも役立ちます。これからも積極的に人と関わり、学び、成長していきましょう」

◇HRS鈴鹿Kart Class・Formula Class佐藤琢磨Principal◇



「モータースポーツには自分の力だけではどうしようもない面があります。このライダー、このドライバーの力になりたい。周りの人にそう思ってもらえる人になることが大切。そのためには求心力が必要です。自分がしたいことを言葉で伝え、サポートしてもらえる環境を自ら作ることが大切です。また、着実に達成できる目標を立てることも大切。自分が今できることの少し上を目指す。それを達成するためにいろいろなことに挑戦する。挑戦しなければ失敗もしません。失敗するということは自分が今持っている技量の限界を超えたということです。これは素晴らしいこと。そしてその原因を分析することが大切。失敗からなにを学ぶかということが重要なのです。ここにいる皆さんは夢を持っていますし、好きなことに挑戦できています。素晴らしい環境にいます。スクールに入校したくても入校できない人の分まで頑張ってください。そしてサポートしてくれる方々に感謝し、次のステップに繋げていきましょう」



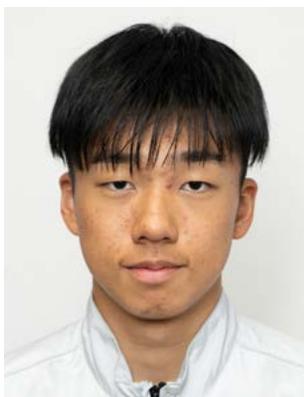
●2024年度 HRS鈴鹿Moto Class・Kart Class受講生のコメント●

コロナ禍の数年は実現不可能だったスクールに関わる人々の懇親の場。今年は、「交流会」と銘打ち、久々に開催されました。その中で、HRS-Moto Class、Kart Classの何人かに最終カリキュラムの印象から来年目指すところを聞いてみました。



◇HRS鈴鹿Moto Classベーシックコース受講生◇
Alfonsi Daquigan (15歳)

「昨年からHRS鈴鹿の受講を始めました。1年目は満足できる走りができませんでした。2年目の今年は昨年以上にInstructorの皆さんに積極的に質問し、アドバイスをいただいた結果、自分でもよくわかるぐらい上達できました」



◇HRS鈴鹿Moto Classアドバンスコース受講生◇
遠藤翔類 (15歳)

「HRS鈴鹿の良さはスクールでの学びを通じて、レーサーとしてだけでなく、一人の人としても成長できることだと思います。普段からレースのことを考える意識が身につきましたし、人に感謝することの大切さも学びました。この経験を今後のレース、そして今後の人生にも活かしていきたいです」



◇HRS鈴鹿Kart Classベーシックコース受講生◇
澤田龍征 (13歳)

「最初は思ったように走れませんでした。徐々にバトルで競り勝つことができるようになりました。トップでチェッカーを受けることができなかったのは残念でしたが、修了記念走行を3位でフィニッシュできたため、1年間の成果が出ていると思います」



◇HRS鈴鹿Kart Classアドバンスコース受講生◇
酒井涼 (16歳)

「このスクールではセット走行が多く行われるため、マシンコントロールはもちろん、バトルの際の抜き方や駆け引きの技術も身につくと思います。スクールで学んだことをレースで活かすことができ、2024年シーズンの全日本選手権OK部門でチャンピオンを獲得することができました」





HRS鈴鹿Kart Class修了式集合写真
(HRS鈴鹿Kart Classベーシックコース:上、HRS鈴鹿Kart Classアドバンスコース:下)



HRS鈴鹿Moto Class修了式集合写真
 (HRS鈴鹿Moto Classベーシックコース:上、HRS鈴鹿Moto Classアドバンスコース:下)





HRS鈴鹿Formula Class 2024年度スカラシップ獲得者
(Instructorの皆さんと佐藤凛太郎:左、新原光太郎:右)

